



## 「備えあれば憂いなし」自分の命は自分で守る！

本年は平年より9日遅く、6月8日（土）に梅雨入りしました。学校日誌で今日（26日）までの天気を確認したら、雨天日が19日中12日ありました。先週は線状降水帯の影響でバケツをひっくり返したような土砂降りがありました。また、数日前にはゲリラ豪雨もあり、土砂災害や農作物の被害が心配です。「災いの雨」ではなく「恵みの雨」になることを願っているところです。

学校では、様々な状況に遭遇した場面を想定して、自分の命は自分で守る訓練を実施しています。「交通安全教室」「不審者対応駆け込み訓練」「風水害児童引き渡し訓練」「避難訓練（地震・火災）」「救急救命講習」等、「万が一」に備え、知識・技能の定着を図っています。

また、健康に関する予防的な学習として「歯科指導」「薬物乱用防止教室」を実施しています。

歯科指導は、「歯と口の健康に関する正しい知識を学ぶ」「歯科疾患の予防に関する適切な習慣の定着を図る」「早期発見・早期治療等を徹底することにより、歯の寿命を延ばし健康の保持増進に努める」等を目的としています。

薬物乱用防止教室は、平成7年～平成8年、覚醒剤による検挙者数の急増を受け、平成30年、学校保健計画に位置付けられ、年1回実施するようになりました。本校では5・6年の学級活動で実施しています。

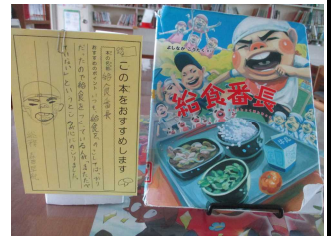
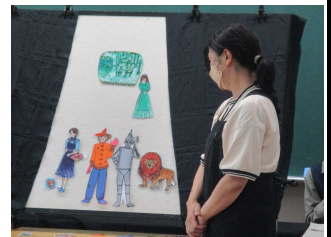
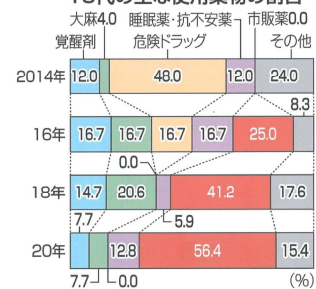
先日、学校保健委員会で、学校薬剤師の竹内先生から「薬物依存で治療中の10代の主な使用薬物の割合」について説明がありました。2014年、覚醒剤・大麻・危険ドラッグ・睡眠薬・抗不安剤で76%を占めていた使用薬物の割合が、2020年では、これらの薬物は28.2%に減少し、市販薬による割合が56.4%に激増しているそうです。通販等で市販薬が簡単に購入しやすくなり、多量に飲用する「オーバードラッグ」が原因だそうです。

私たちは危険な環境に囲まれています。万に備え、危険から未然に防止する知識・技能の定着を図り、自分の命は自分で守るようにしたいものです。「備えあれば憂いなし」ですね。

校長 石踊 晴元



薬物依存で治療中の10代の主な使用薬物の割合



## 晴耕雨読！雨の日には読書を！

梅雨入りして連日の雨。雨がやんでも校庭はぬかるみ、遊べる状態ではありません。このような時季だからこそ、雨音のBGMを聴きながら「雨の日の読書」は、いかがでしょうか。

本校では20日（木）5校時、町図書室の水流先生、教育委員会の方々による出前読み聞かせ（パネルシアター）を実施しました。朗読に合わせて貼り替えられるパネルに、子供たちは目を輝かせ、物語の世界に引き込まれていました。

また、児童会では、総務委員会がお勧めの本とメッセージを図書室の本棚に掲示し、読書活動の推進に努めていました。

ある研究によると、読書には、「ストレス解消」「集中力アップ」「記憶力の向上」「語彙力の向上」「表現力の向上」「共感する感情の醸成」等の効果があるそうです。その他にも、脳を鍛えることで「認知症予防」にも効果があると言われ、読書は「よいことづくめ」です。

昔から「晴耕雨読」という言葉があります。この時季、親子で読書に勤しみ、本の世界を旅してみたいかがでしょうか。